

新しい漆食器の提案

～これからの 2 人のために～

A22014020 佐藤沙妃

研究の概要

漆と食器は、日本の食文化の長い歴史の中で共生してきた。抗菌性や手触り・耐久性など、食器として普段使用する上で優れた性質を持ち、また外見も美しいため、古くから用いられ独特の文化を形成してきた。

しかし近年、漆産業は、多様化する生活様式とともに消費生産規模が縮小し、産業社会において衰退しつつある。需要や職人の減少など、原因は様々なものが考えられるが、その理由のひとつとして『従来の漆器が、現代の社会が求めるものと食い違う点もあるためではないか』と捉え、現代の生活様式や様々な状況に適した漆器についての考察を研究テーマとして設定した。

卒業研究では、大きな社会問題として扱われる「少子高齢化」と古くから漆と共に歩んできた「食器」に焦点を当て、考察・試行、制作を行った。

研究の目的

- ✓ 今後定年を迎え、第 2 の人生をスタートさせる熟年層の方々に、研究結果を投影させた漆食器を提案する。
- ✓ 時代に合った漆のあり方を提案し、実際に制作をすることで、これからの漆のあり方を考える。

研究のプロセス

● 飯椀・汁椀・多目的椀について

1. デザイン決定まで

- ・アイデアスケッチ
- ・必要条件の決定
- ・試作（色味・ふち）
- ・3ds max で形状の模索
- ・型紙の作成
- ・出力したモデルを元に木型の試作
- ・試作を元にデザイン再構成
- ・デザイン決定

2. 制作

- ・木型の用意（ミズメ）
- ・型紙を元にろくろで挽く
- ・表面処理
- ・カタメ（漆をしみこませる）
- ・メスリ（表面の傷や穴を埋める）
- ・内側→下地（蒔地・サビ）～下塗り
- ・外側→摺り漆
- ・完成



▲デザイン決定まで



▲木型（ミズメの木）



▲飯椀・多目的椀・汁椀



▲カタメ (右)



▲下地付け



▲摺り漆 (右)

● 大皿について

1. デザイン決定まで

- ・アイデアスケッチ
- ・必要条件の決定
- ・椀とのバランスを考慮しデザイン制作
- ・3ds max で形状の模索
- ・デザイン決定



▲石膏の雄型

2. 制作

- ・粘土での原型制作
- ・石膏で型取り
- ・下地 (内側)
- ・漆で麻布を型に貼り付ける (5枚)
- ・下地 (外側)
- ・型から外す (脱乾)
- ・ふちを整える
- ・両面のサビ付け
- ・下塗り～上塗り
- ・足の取り付け
- ・完成



▲石膏に麻布を貼り付け、形を作る



▲下地付け→研ぎを繰り返し、表面を平滑に

考察とまとめ

漆と食器、特に椀は古くから共にあるものだが、今回制作してみてその奥の深さに驚いた。普段はあまり気にすることもないが、材質・形状・表面の処理・高台…と、様々な要素で構成されている上、そのバリエーションの幅はとても広い。研究では、持ちやすさと安定感を中心に形を作っていたが、ほんの少し焦点をずらせば、まったく違う形のものが出来上がると思う。それだけ工夫のし甲斐があると共に、研究においては試行錯誤した。

また今回制作した食器セットは、末永く使ってもらうために極力シンプルで飽きのこないデザインを心がけた。使っていくうちに手によくなじみ、艶が増していく仕様で、今はまだまだ発展途上にある。卒業研究後もこの漆器をずっと使用し、いつまでも生活を共にしながら、漆のよさを周囲に伝えることもこの研究の使命であると考えたい。